

◇◇不活化ポリオ予防接種説明書◇◇

【ポリオとは】

ポリオウイルスに感染すると、多くの場合、病気として明らかな症状はあらわれずに、知らない間に免疫ができますが、まれに腸管に入ったウイルスが脊髄の一部に入り込み、主に手や足に麻痺があらわれ、その麻痺が一生残ってしまうことがあります。

残念ながら、特効薬などの確実な治療法はありませんが、麻痺に対しては、残された機能を最大限に活用するためのリハビリテーションが行われています。

不活化ワクチンはウイルスから免疫をつくるのに必要な成分を取り出して、病原性をなくしてつくったものです。

ウイルスとしての働きはないので、ポリオと同じ症状がでるという副反応はありません。

【不活化ポリオ予防接種の副反応】

注射の跡の痛み・赤み・腫れがみられることがあります。

まれに、全身症状として発熱・易刺激性・傾眠状態（うとうとする）。重大な副反応として、ショック・アナフィラキシー様症状・けいれんなどあらわれる事がありますので、接種後は十分に観察を行ってください。

【予防接種を受ける前に】

予診票は、接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。保護者本人が責任を持って記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。医師から十分に説明を聞き、理解した上で（接種する・接種しない）を判断して下さい。

【予防接種を受ける事ができない人】

- 一般的に体温が37.5℃以上の場合
- 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- 本剤の成分によってアナフィラキシーを呈したことがあることが明らかな人
- その他、医師が不適当な状態と判断した場合

【予防接種を受けるに際し、担当医師とよく相談しなくてはならない人】

- 心臓血管疾患・腎臓疾患・肝臓疾患・血液疾患・発育障害などの基礎疾患がある人
- 予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた人。全身に発疹などのアレルギーを疑う症状をおこした事がある人
- 過去にけいれんを起こしたことがある人
- 過去に免疫不全の診断を受けた人。また近親者に先天性免疫不全の人がいる人
- 不活化ポリオワクチンの接種液の成分に対して、アレルギーを起こすおそれのある人

【接種液、接種回数など】

- 対象年齢は、生後2か月から7歳6か月になる前日までです。
- 接種液は0.5mlずつ4回、皮下に接種します。
- 医師の判断により他の予防接種（例えば三種混合）と同時接種を行うことが可能です。

【予防接種健康被害救済制度について】

不活化ポリオ予防接種が原因で重篤な障害を残すなどの健康被害が生じ、厚生労働大臣が当該予防接種によるものと認定した場合は、予防接種法に基づく健康被害救済制度があります。

【予防接種を受けた後の一般的注意事項】

- 不活化ポリオワクチン接種後24時間は副反応の出現に注意し、観察しておく必要があります。
特に接種直後30分以内は健康状態の変化に注意してください。
- 食事や入浴などいつもの生活で大丈夫ですが、激しい運動はさけてください。
- 気になる症状があれば接種医に相談して下さい。

【その他】

不活化ポリオワクチンは、ウシ由来物の原材料（米国産、カナダ産およびオーストラリア産のウシ血液成分）を使用しています。この成分は健康なウシに由来して作っているので、海外では接種により伝達性海綿状脳症（TSE）に感染する危険性は報告されていません。不活化ポリオウイルスによるTSE感染のリスクは極めて低いと考えられます。

○問い合わせ：

飯塚市	健幸保健課	地域保健係	（電話）0948-96-8615	（FAX）0948-25-8994
嘉麻市	子育て支援課	母子保健係	（電話）0948-62-5715	（FAX）0948-62-5691
桂川町	健康福祉課	健康推進係	（電話）0948-65-0001	（FAX）0948-65-0078